

あとがき

私がこの仕事にとりかかったのは、学部卒業論文の折ですから、すでに15年も前のことになります。最初の目的が素材を中心とした表現論的考察にあったため、恣意的なカードの取り方をしてしまい、総索引としてまとめるためには殆んど初めからやり直さなければならぬ破目となり、作業に手間どってしまいました。そのため、昭和45年に『山家集』歌語索引、48年に同詞書・左注索引を騰写刷りで印行致し、一部の方々に御利用頂きましたが、杜撰の譏を免れず、随分と御迷惑をおかけしました。ここに、心からお詫び申し上げます。

ところで、労作『西行和歌各句索引』を作成された山木幸一氏は、その「私記」の中で、索引とは『『死屍解剖』のわざであり、『電話帳のような』非情のものであり、便宜的なもの以上のものでない。」と謙遜しておいでになられます。しかし、出来上った索引は一見そう見えても、あくまで歌は生きものであり、読み手の読みにすべてがかかっているのですから、メスの使い方一つで歌を殺すことになりかねず、単純な作業でないことを思い知らされました。「盲、蛇に怖じず」とはよく言ったもので、今やこういう企てをする勇氣は完全になくなったようです。こうして活字になっていくのに立会っていると、いよいよ不安がつのりますが、真の恐ろしさを感じ知らされるのはこれからであろうとも思っています。

刊行に至るまでには、恩師の北住敏夫先生、菊田茂男先生、峯岸義秋先生に暖かな励しを頂戴し、多くの方々の御協力を得ました。殊に、青島徹氏には細部にわたって懇切丁寧な御教導を賜り、山木幸一氏、松本宙氏にも御教示を賜りました。また、はからずも、笠間書院から公刊の機会を与えられましたのは、滝沢貞夫氏の御紹介によるものです。この1年間にわたる滝沢氏の心暖まる御配慮と御鞭撻なしには、この仕事の完成はあり得ませんでした。衷心から感謝を申し上げる次第です。

最後に、この本の出版を御快諾下さり、怠惰な作業に終止し、御迷惑ばかりおかけしたにかかわらず、辛棒強くお世話頂いた笠間書院社長池田猛雄氏、編集部の鎌田裕次氏、煩瑣な印刷に御協力頂いたモリモト印刷に対し、感謝の誠を捧げます。

昭和53年5月13日